

八戸市長賞

整備されていく三条に輝く緑

三条中学校 二年 馬渡 優奈

私には、今、興味をもっているものがある。それは「SDGs」と「区画整理事業」だ。「SDGs」は「持続可能な開発目標」という意味で、二〇一五年の国連サミットで二〇三〇年までに達成したい目標として採択された。十七の大きな目標と、それらを達成するための具体的な百六十九のターゲットで構成されている。「区画整理事業」は、八戸駅西地区まちづくり計画のことだ。

私は小さい頃から、祖母と一緒に畑で野菜を育ててきた。夏休みに家族皆でジャガイモを掘るのが、我が家の夏の一大イベントとなっていた。そのジャガイモをふんだんに使って作る祖母のカレーライスは最高においしかった。夏だけでなく、春にはチューリップと鉢植えの桜が、秋にはコスモスが花壇に咲き誇り、家の周りを彩ってくれた。冬は冬で、チューリップの球根を植えたり、次に植える野菜の種類を決めたりした。こうして、我が家は一年を通して、花や野菜とともに過ごしてきた。花や野菜を育てるのは大変なときもあったが、家族に笑顔を与えてくれた。それが「当たり前」だと思っていた。そんな中、我が家の畑と裏の木が区画整理にぶつかってしまった。全部ではないが半分くら

いがなくなる、と聞いたときは、全部なくならなくて良かった、という気持ちと、寂しさが混ざり合い、複雑な気持ちになった。新しいまちづくりをして、新しい八戸になるのは楽しみだが、三条に広がる田畑や自然などが失われてしまふのではないか、という不安も胸をよぎった。しかし、その心配はいらなかった。小学校六年生で浅水川の研究をしたとき、市役所の方に問い合わせをして資料とメッセージをもらったのだ。その中に、「水と緑に囲まれた環境の保全を図りながら、『人が集まり、歩くことが楽しいと感じるまちづくり』をメインテーマに計画的に整備します。」とあった。整備によって緑が少なくなるのではなく、様々な人が集まる場となり、四季が感じられるのは素敵だな、と思った。

緑を大事にするのなら、例えば、駅の近くに菜園を設置するのいいと思う。三条地区には新しい住宅が増えてきており、少し前の田畑が広がる三条を知らない人も多い。もともと三条地区に住んでいた人も、そうでない人も、野菜を育てたことがある人も、ない人も、皆で参加できるような菜園になれば、地域の交流の場の一つになるのではないかと、思う。なぜなら、野菜を育てることはコミュニケーションにつながるからだ。大好きなキュウリを畑で育てたときのことだ。なったキュウリをそのまま畑で食べた。とてもみずみずしくおいしかった。主食がキュウリになるほど食べて家族に笑われ

たり、おいしさを共有したりすることができた。こんな風に、野菜作りを通して人の輪が広がれば、明るい地域づくりにもつながると思う。

もしも菜園を設置したら、一年を通して、様々な人が交流できるようにイベントを設けてみたい。野菜を育てるには、一年を通して様々な作業が必要だ。苗を植え、水をあげるだけでなく、成長に応じて肥料を与えたり、支柱を立てたりして環境を整える必要がある。大変なこともあるかもしれないが、収穫のときには多くの人と喜びを分かち合えるだろう。

区画整理によって三条の景色が大きく変わるということには驚いたが、未来に向けて、持続可能な社会をつくっていくことに期待できると思う。緑が広がる三条は、少し形を変えても、これからも受け継がれていく。時が流れ社会が変化しても、自然と共存した住みよい街であってほしい。

持続可能な社会を創造しようとする考え方は、「SDGs」にもつながるものだと感じる。今回の区画整理は、「⑪住み続けられるまちづくりを」「⑯陸の豊かさを守ろう」ということに関わると思う。

だから私は持続可能な社会を構築する担い手の一人として、身近な畑を守りたい。これからも野菜を育て、とりたて野菜のおいしさをより多くの人に届けたい。変化していく三条地区とともに成長し、社会に貢献できるように頑張りたい。

私はこの緑が広がる三條、いや、「緑を広げる三條」を誇りに思う。